



- ⑥
- ⑤
- ④
- ③
- ①
- ②

- ① 中央の中庭に設けられた池
- ② 池の奥に見えるのが雨水濾過装置
- ③ 中庭に舞い込んだ光と風が、吹き抜けを通じて2、3階まで行き渡ります
- ④ 3階住宅リビングは畳間に、他の居室とは引戸を介してつながった回遊できる開取り
- ⑤ 中庭を囲む2階回廊。木製サッシの窓を通して光と風が循環します
- ⑥ 1階産院待合室。無垢の木と漆喰で覆われ、住宅のリビングのような雰囲気



Okinawa Style 沖縄らしいエコな住宅の在り方 episode1 アトリエガイイの場合

前回の特集に引き続き、今回も建築家・佐久川一さんの作品とともに自然と環境に則した沖縄らしい住宅の在り方を検証したいと思います。
本土復帰の1970年代初頭から21世紀の現代まで、激変の時代を建築家として歩んだ佐久川さんが掲げたテーマは「サステナブルな家づくり」。環境や自然を破壊することなく、維持、継続できることが建築の根底にあります。風土に根ざした家が、景観の一部として成立する。そんな家づくりのポイントを尋ねてみました。

「住まいの居心地を医院に、医心を住まいに」が設計のコンセプト。1、2階を産婦人科クリニック、3階を住宅に充てた職住一体型の建物で、中国とインドそれぞれの風水の吉相をヒントに敷地条件を読み解き、風・光・水の巡りがよい空間形態に整えられています。

回遊式の建物に囲まれるように、中央に配置されているのは、4メートル×5メートルの大きな中庭空間。顔を上げると、空へと視線が抜けていくこの吹き抜けは「風水筒」と名付けられ、インド風水の原則に従い、中央部に気を集めて五元素（空、風、火、水、土）を全体に行渡らせるように計画されています。例えば中庭には池を造作し、生命のシンボルである「水」

「ゆいクリニック」設計を振り返って 建築家・佐久川一さん

ゆいクリニックの設計は、命を育むという建築の役割を再認識する良い機会であった。自然素材が生き生きと使われることに腐心したことを振り返って、素材そのものよりも素材の組み合わせや構成によって使われ方に大きな影響があるように感じる。よく使われることが最良の喜びであり、五感に響く表現が、空間の持続性を支えているのだという思いに至った。心で感じることの大切さをもっと意識した設計・施工の取り組みが今必要とされる時代なのだろう。人と自然への愛と信頼を深めていく活動が建築のフィールドに求められているように思う。（ホームページより抜粋）

を徹底している点も特長です。例えば構造躯体は、ひび割れせず美観・性能を長持ちさせるために「再振動工法」で打設し、強度30ニュートン・スランプ12センチの密実なコンクリートを実現。打ち放しのコンクリート表面には液体ガラスを塗布し、耐久性を一段と高めました。また屋根の断熱には、赤土に石灰、石灰石粉、セメント、廃ガラスからつくる多孔質軽量発泡資材などを混ぜ合わせて50〜70センチ厚に塗り込み、外壁は、杉板木舞を施したモンゴル式の土壁と、沖縄

の伝統的な木造民家に見られる板張りを採用しています。

実は設計上は、一般的な断熱材を施工するだけで、国が推奨する「長期優良住宅」の認定基準をクリアしていましたが、建物の内外を木と土で覆うなどの工夫を取り入れたことで、熱効率が格段に向上しました。こうした取り組みは県内外で高く評価され、2013年の

「第5回サステナブル建築賞」では、審査委員会奨励賞（小規模建築部門）を受賞。講評では「数値的に評価することは難しいが、木材や土等の自然素材を多用し、創意工夫と独特なアイデアが至る所に施された新しいタイプの沖縄建築・風土を創り出す野心的なサステナブル建築であり、意欲作」と称賛されるなど、広く話題を呼びました。



敷地南側からの外観。2階の写真左手に突き出たスペースは建築後に増築。外壁の板張りも塗り替えました

「水」の循環システムとして、雨水の再利用も図りました。屋根から流れる雨水は4カ所の濾過槽を通過後、約40トンの容量がある地下タンクで貯水し、産院・住宅合わせて12カ所あるトイレの洗浄や3階屋上菜園の散水に役立てるほ

「水」の循環システムとして、雨水の再利用も図りました。屋根から流れる雨水は4カ所の濾過槽を通過後、約40トンの容量がある地下タンクで貯水し、産院・住宅合わせて12カ所あるトイレの洗浄や3階屋上菜園の散水に役立てるほ



3階屋上菜園は家族のコミュニケーションの場

を巡らせ、水の音、水面のきらめき、水辺の植物などの効果で空間を演出。吹き抜けを囲む2階の回廊は、木製サッシと合わせて色ガラスを所々に採用し、ソフトな自然通風と目に優しい光が得られるようにプランニングされています。また中庭に舞い込んだ風は2階産院、3階住宅へと吹き渡り、それぞれハイサイドライトや天井から暖気が抜けるように断面が工夫されています。

か、洗濯の一部、洗車などに有効活用。さらに地下タンスの水の一部は、水質を維持するために中庭の池へ一度流し、外気を取り込み浄化してから再びタンクに戻す仕組みになっています。

**サステナブルなポイント その2
知恵と技術で
古来の自然素材を
高品質化**

建物の躯体は鉄筋コンクリート造でありながら、内部は無垢の木と漆喰でまとめた自然のぬくもりあふれる空間。コンクリートが露出した場所は一つもなく、床は基本的に無垢フローリングを自然塗料で仕上げ、2階産院の待合室や3階住宅のリビングは、妊婦や子どもがくつろげるように琉球畳を採用しています。また漆喰の塗り壁は、ひび割れしにくいように月桃の繊維を赤土に混ぜ、場所に応じて腰板も設置。天井は板張り・漆喰塗り・天然鉱物が主成分の多機能建材「モイス」張りの3種類を使い分け、吸湿・吸音効果を高めています。

断熱性を高める上で、古来の建築素材を知恵と技術によって高品質材へと昇華させ、同時に環境への配慮